

【2：防災・減災】

<概要>

北陸地域では、近年重大な災害は発生していないが、地震（津波）・豪雨・台風・融雪・原子力災害等は予見される災害として存在し、少し過去に遡ると、台風・梅雨時期の豪雨による河川災害（土砂災害・大洪水）と地震災害は比較的頻発している。実際、1858年の飛越地震に伴う「鳶山崩れ」による土石流被害（富山平野）や、昭和9年の手取川大洪水などでは大きな被害が生じている。

本「防災・減災」プロジェクトでは、平成29年度設置予定の寄附講座を軸として、土砂災害の中でも、多くの人々に影響を与える河川防災・河川砂防に注目し、時間的にも、金銭的にも大きなコストが必要なハード面での対策ではなく、ソフト面に重点を置いた研究を進める。具体的には、横断的な災害関連情報の集約と分析、シミュレーションを行うと共に、災害の発生前後における防災対策の立案とその実施主体の明確化、並びに実施主体間の相互連携強化の仕組みづくりとその社会実装を目指す。

また、本学が立地する金沢は、北陸新幹線の金沢開業を受け、ますます国際観光都市としての期待・立場が強まっており、外国人観光客等を含めた非居住者（来街者）を考慮した防災・減災対策も重要である。また、高齢化が進む中で、要介護・要支援などの移動弱者への配慮も必要である。そこで、本寄附講座では、多言語化対応とICT技術を活用して非居住者や移動弱者を含めた防災・減災対策の社会実装支援システムの研究にも重点を置く。

<活動体制>

（学内）

高山純一（理工研究域環境デザイン学系・教授）

稲葉英夫（医薬保健研究域医学系・教授）

岸田由美（理工研究域機械工学系・准教授）

藤生慎（理工研究域環境デザイン学系・助教）

（連携自治体）

石川県、金沢市

<活動中の個別事業>

- ・外国人観光客の緊急時・災害時の対応・対策
- ・災害時におけるドローンの公共活用
- ・平成29年度開始：防災減災寄附講座の設置準備
（危険度予測の高度化、防災計画の精緻化高度化、防災関係者のネットワーク構築）